



きれいな学校 輝く笑顔 ~J(授業)A(挨拶)S(清掃)MI(身だしなみ)N(仲間)~

大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

「失敗の数だけ成長できる」「涙の数だけ強くなれる」 さあ新人戦が楽しみだ！

校長 新井 敬二郎

東京五輪2020招致決定、おめでとうございます。7年後の事です、先行き不透明なこの時代に光明が見えたと言いますか、何かわくわくして明るい気持ちになったのは私だけではないでしょう。

さて読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、秋にはいろいろな言葉が当てはまりますが、学校にとっては「実りの秋」がピッタリです。9月には、体育祭があり、みなさんの頑張りに感動しました。さすが大中学生です。また保護者のみなさまの温かく、熱い応援ありがとうございました。そして、今週末には1・2年生主体の新人体育大会が始まります。さらに10月28日(月)は小・中交流の日(つぼみの日)があり、11月1日(金)には合唱祭があります。ぜひ生徒のみなさんにはどの行事も頑張って結果を残し、楽しい思い出をつくってほしいと思います。

しかしながら、これまでみなさん(3年生を含めて)の大会での様子を見てみると、精神面のひ弱さを感じることがあります。特に点差の競った五角のチームとの戦いで勝ち抜くことのできないひ弱さです。一言で言えば「内弁慶、井の中の蛙」なんです。また、前半は良い勝負をしても後半にバテテしまう体力のなさです。それは小規模校で部員が少なく、チーム内に競争がないから弱いのか、それとも他に原因があるのか。先生方に聞くと「子どもたちに本当の意味での自信がない」「苦しい時に声が出ない」「本番に弱い」「悔しさをすぐに忘れる現代っ子の集まり」との声がありました。全力を出し切るというのは大変なことです、結果はどうあれ「失敗の数だけ成長できる」と思えば、もっと思い切ったプレーができるのではないのでしょうか。

トリノ冬季五輪のフィギュアスケートで金メダルを獲得した荒川静香さんは、上のようなお話をされていました。特に「敗北に立ち向かい、立ち直るすべを知らないから、敗北を避け失敗を怖がるようになってしまう。」「失敗と向き合えば、必ず成長できる。」って、すごい言葉だと思いませんか。そういえばイチロー選手も「4,000本打つのに、8,000回以上、悔しい思いをしてきた。そこに自分なりに向き合ってきた。誇れるとしたら、そこじゃないですかね。」と含蓄のある言葉を残しています。

新人体育大会でよい結果が出た選手・チームは、その結果を自信とし、破れてしまった選手・チームはその悔しさを持続することが大切です。失敗と向き合い、悔しさをこの後も継続できたら春には本当の意味で、強く尊敬されるチームになっていると思います。

「失敗の数だけ成長できる」

荒川静香

今の日本社会には(中略)きついことや不得手なことはやらなくてもいいと思ってしまう風潮が見える。教育や生き方を通じ、得意でもないものを切り捨ててきた人は、ひとつのものとじっくり向き合い続ける大切さを、学ぶ機会が少なかったのかもしれない。敗北に立ち向かい、立ち直るすべを知らないから、敗北を避け失敗を怖がるようになってしまう。でも、わたし自身の経験から言うと無駄な失敗はひとつもない。

失敗と向き合い、何かを捨てて立ち上がれば、必ず失敗の数だけ成長できる。そう考えると、失敗することも恐くなくなる。

(中略)まずは自分と、しっかり向き合うことから始めよう。その一歩は、いつ踏みだしても遅くない。

